

国際言語文化研究科 全学向け授業案内

2006年度後期全学向け「外国語特別研修コース」及び 「セミナー」について

国際言語文化研究科全学向け授業は「外国語特別研修コース」及び「セミナー」からなっています。「外国語特別研修コース」はいわゆる演習を主体とした少人数による外国語授業、「セミナー」は外国語の学修を通して言語文化の知識を養い、異文化理解を深めることを目指す授業です。皆さんの積極的な受講を期待しています。

〈学部学生の皆さんへ〉

「全学向け授業」として登録する場合は、本冊子に従って手続をしてください。全学教育科目の「言語文化II」として登録する場合は、教養教育院作成の「履修に関する注意事項」に従って手続をしてください。

外国語特別研修コース

科 目		開講期間
		後 期
英 語	Level 2 a	—
	Level 2 b	○
	Level 3 a	—
	Level 3 b	○
ド イ ツ 語	Level 1 a	—
	Level 1 b	○
	Level 2 a	—
	Level 2 b	○
フ ラ ン ス 語	Level 1 a	—
	Level 1 b	○
中 国 語	Level 1 a	—
	Level 1 b	○
ス ペ イ ン 語	Level 2 a	—
	Level 2 b	○
朝 鮮・韓 国 語	Level 2 a	—
	Level 2 b	○
ポ ル ト ガ ル 語	Level 2 a	—
	Level 2 b	○
古 典 ギ リ シ ア 語	Level 1 a	—
	Level 1 b	○
ラ テ ン 語	Level 1 a	—
	Level 1 b	○
イ タ リ ア 語	Level 1 b	○
オ ラ ン ダ 語	Level 1	○

セミナー

英 語	科 目		開講期間
			後 期
	言語文化セミナー		○
	言語表現セミナー		○

注) Level 1, 2, 3 は、この順で授業内容が高度になります。

II. 授業期間・休業日・休講日・授業時間帯

1. 授業期間

後期：2006年10月2日(月)～2007年2月2日(金)

2. 休業日

冬季休業期間：2006年12月28日(木)～2007年1月7日(日)

3. 休講日

大学入試センター試験実施準備：2007年1月19日(金) (予定)

4. 定期試験期間

後期：2007年2月5日(金)～2月19日(月)

5. 授業時間帯

第1時限 8：45～10：15

第2時限 10：30～12：00

第3時限 13：00～14：30

第4時限 14：45～16：15

第5時限 16：30～18：00

III. 受講対象者

受講対象者は、本学の学部学生、大学院生、研究生等及び本学職員です。

ただし、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生は受講できません。

IV. 休講等

各授業科目の休講、教室変更、授業に関することは、国際言語文化研究科棟1階掲示板（玄関左側）で通知します。

V. 成績の通知

成績評価の通知は以下のとおり行います。

1. 学部学生、大学院生、研究生等については、各部長あてに通知します。

2. 職員については、本人に通知します。

VI. 受講の辞退

事情により学期途中で受講できなくなった場合には、国際言語文化研究科事務室で交付される所定の「全学向け授業辞退届」を、必ず授業担当教員に提出してください。この手続きを行わずに受講放棄すると、以後、受講を認めないことがあります。

VII. 受講申込み手続き

1. 外国語特別研修コース

英語

1. 受講申込カード(黄色の3連カード)配付場所及び申込場所

配付場所 国際言語文化研究科棟1階 玄関付近(5ページ配置図参照)

申込場所 国際言語文化研究科棟1階 事務室(5ページ配置図参照)

2. 申込期間及び時間 期 間：2006年9月26日(火)、27日(水)

時 間：9：00～12：00、13：00～17：00

* 申込期間以降は受け付けませんので注意してください。

3. 受講申込カード記入・提出について

受講希望者は、「受講申込カード」に必要な事項を記入のうえ、申込期間中に国際言語文化研究科事務室に提出してください。特に以下の①～③については、注意事項をよく読んで記入してください。提出の際には、本人保存用及び教員保存用の紙片を返却しますので、教員保存用の紙片は第1回目の授業時に授業担当教員に渡してください。また、本人保存用の紙片に記載してある受講受付番号により受講調整結果を掲示しますので、結果の確認には必ずその紙片を持参してください。なお、受講す

る授業が決定した後も、本人保存用紙片は保管しておいてください。

①『TOEIC点数（または自己採点）』：

「英語Level 2」及び「英語Level 3」の受講を希望する人は全て、TOEIC公開試験あるいはその模擬問題集によって得た自分の英語力の点数を受講申請の際に記入せねばなりません。TOEIC受験、あるいはその模擬問題集の採点は各自で行ってください。TOEIC以外の試験の点数は不可。TOEIC模擬問題集として、例えば以下のものが出版されています。

- (1) 『TOEIC公式ガイド&問題集Vol.2』（国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会、2002年）2,940円
- (2) 岩村圭南（著）『TOEIC テストまるごと模試600問-CD 2枚付き』（アルク、2004年）2,310円
- (3) 『TOEIC テスト完全攻略』（旺文社デジタルインスティテュート、2001年）7,140円
- (4) 『TOEIC テストスーパー模試シリーズ470点攻略』、『TOEIC テストスーパー模試シリーズ600点攻略』、『TOEIC テストスーパー模試シリーズ730点攻略』（以上三点、旺文社デジタルインスティテュート、2003年）7,140円

* TOEICスコアの自己採点には、名大生協が実施している年4回（5, 7, 11, 1月）のカレッジTOEICも利用できます。

②『希望する級』：

TOEICあるいはその模擬問題集によって知り得た自分の英語力に応じて、「英語 Level 2」あるいは「英語 Level 3」のどちらかを選択し、申請してください。点数と Level の対応は以下のとおりです。

英語 Level 2 受講者の英語力：TOEIC 650点以上～749点以下

英語 Level 3 受講者の英語力：TOEIC 750点以上

なお、各々の Level の点数（TOEIC）に満たない場合は、受付できません。さらにTOEIC 750点以上の場合は、Level 2 では受付できませんので、Level 3 を申し込んでください。

③『希望するクラス』

②で決まった Level の中から受講したいクラスを3つまで。記入した希望クラスまでで調整できなかった場合、同じレベルの任意のクラスに振り分けられることがあります。

4. 受講調整結果の発表

受講希望者が受講可能人数を超える場合は、提出された「受講申込みカード」のデータをもとに受講調整を行い、各授業の受講者を決定します（決定後の問い合わせには応じません）。受講調整の結果は、9月29日（金）9時までに国際言語文化研究科棟1階掲示板（玄関左側）に掲示します。

定員に限りがあるので、受講希望者が全員受講できるとは限りません。

5. 第1週の授業を無断で欠席した場合は、受講放棄とみなしますので、ご注意ください。この件に関する質問に対して、国際言語文化研究科事務室は対応しません。
6. 決定された授業からの辞退は認められません。
7. 外国語特別研修コースの英語は、級を問わず一期に一クラスしか受講できません。

英語以外の外国語

全学向け授業としては、第2週〔10月10日（火）～16日（月）〕から開講します。

受講手続きは、次のとおりです。なお、希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。

1) 受講申込みカード配付場所

国際言語文化研究科棟1階（5ページの配置図を参照）

2) 配付期間及び配付時間

期 間：2006年10月10日（火）～16日（月）

時 間：平日 9：00～17：00

3) 配付カード

青色 (三連)

4) 受講登録手続

第1回目の授業時(10月10日(火)~16日(月))に受講が許可された授業科目について、「受講申込みカード」のうち教員保存用の紙片を授業担当教員に渡し、事務室保存用の紙片を国際言語文化研究科事務室に提出してください(締切厳守)。

期 間：2006年10月10日(火)~10月17日(火)

時 間：平日9:00~17:00

2. セミナー

第1週〔10月2日(月)~6日(金)〕から開講します。

受講手続きは、次のとおりです。希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。なお、全学教育科目(学部生授業)として登録する学生が優先されます。

1) 受講申込みカード配付場所

国際言語文化研究科棟1階(5ページの配置図を参照)

2) 配付期間及び配付時間

期 間：2006年10月2日(月)~10月6日(金)

時 間：平日9:00~17:00

3) 配付カード

青色 (三連)

4) 受講登録手続

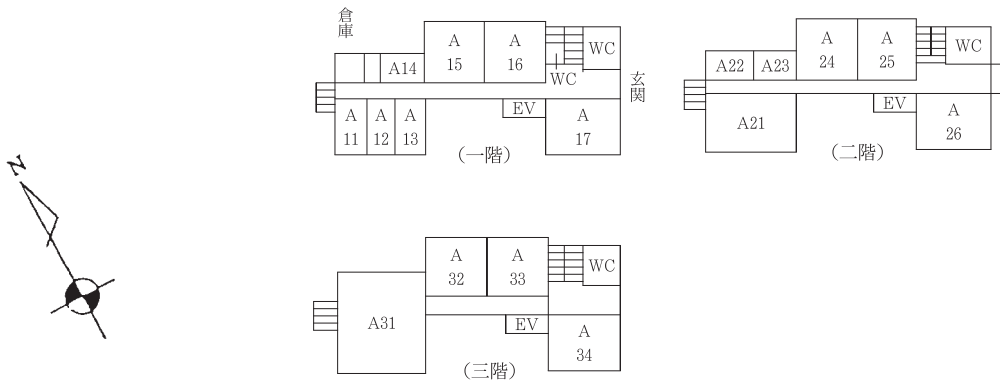
第1回目の授業時(10月2日(月)~6日(金))に受講が許可された授業科目について、「受講申込みカード」のうち教員保存用の紙片を授業担当教員に渡し、事務室保存用の紙片を国際言語文化研究科事務室に提出してください(締切厳守)。

期 間：2006年10月2日(月)~10月17日(火)

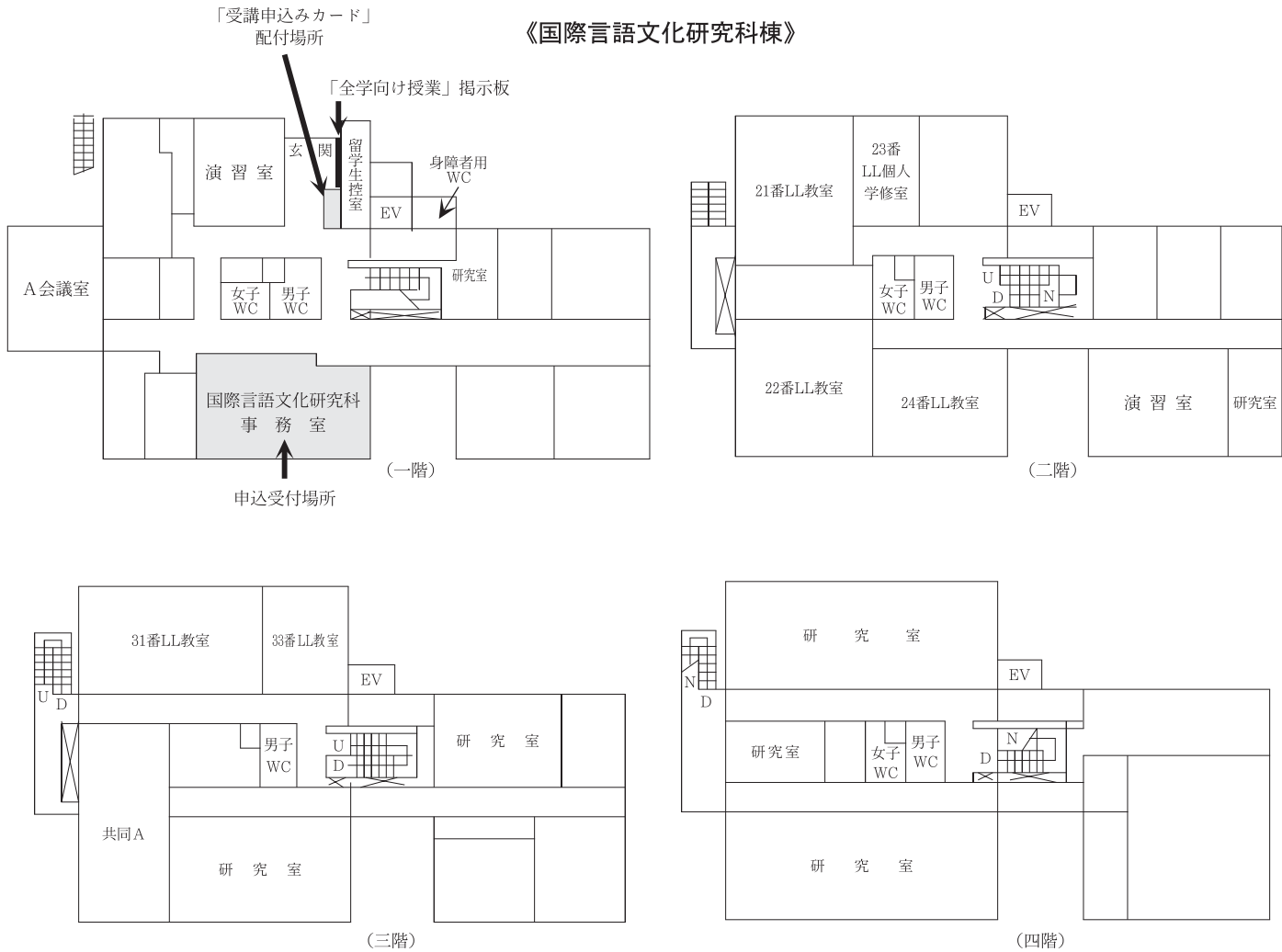
時 間：平日9:00~17:00

全学教育棟及び国際言語文化研究科棟教室配置図

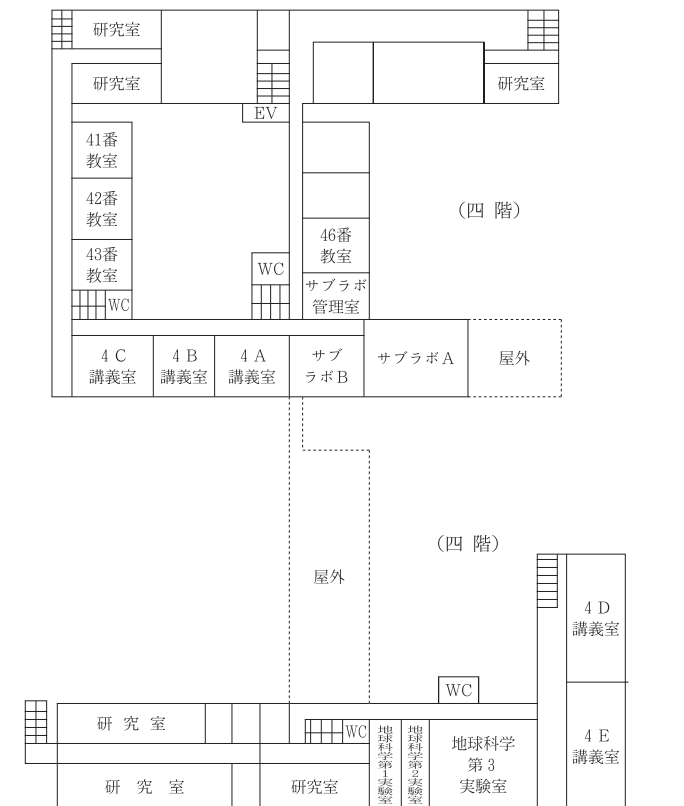
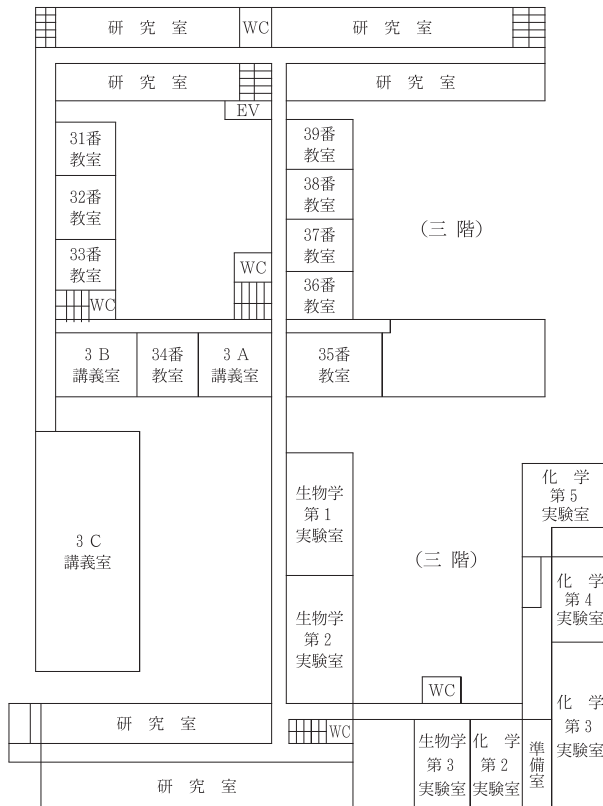
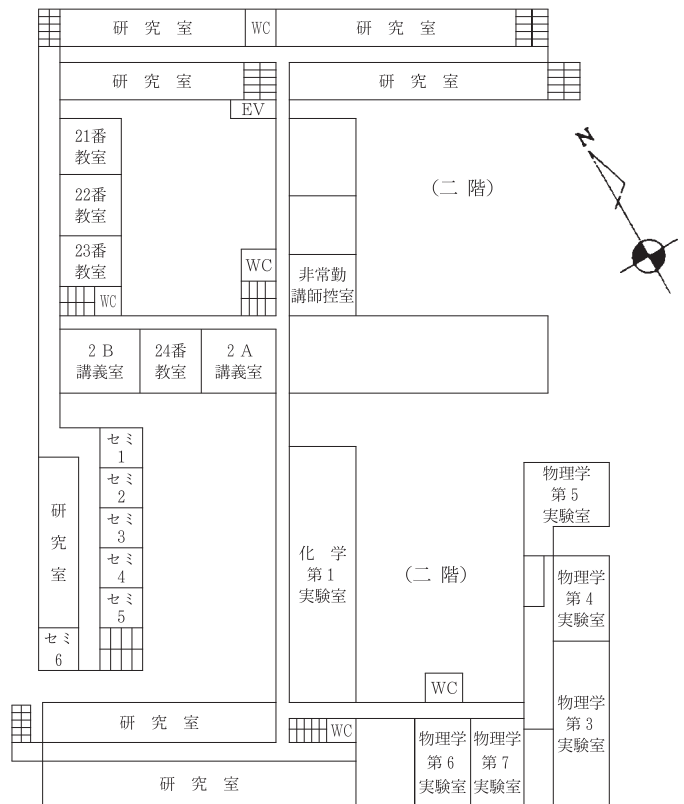
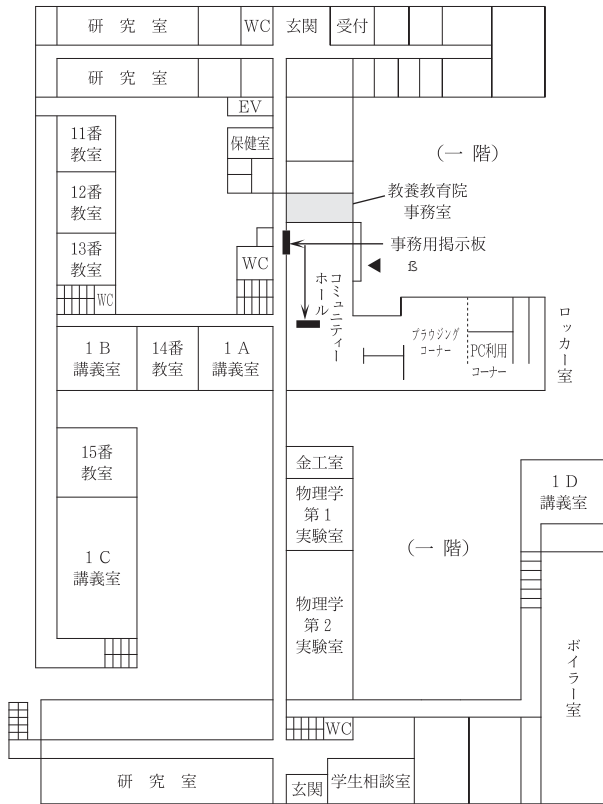
《全学教育棟 A館》



《国際言語文化研究科棟》



《全学教育棟本館（情報文化学部）》



2006年度後期・授業時間割表

「外国語特別研修コース」

	授 業 科 目	記号	担当教員	曜日(時限)	教室	定員	備 考
英 語	英語 Level 2b	A	MORITA CHUA LIANG	月(3)	語22	20	
	英語 Level 2b	B	HAIG EDWARD	火(4)	31番	20	
	英語 Level 2b	C	MORITA CHUA LIANG	水(2)	語24	20	
	英語 Level 2b	D	M.C.Weeks	水(4)	語21	20	
	英語 Level 2b	E	POTTER SIMON R.	木(2)	36番	20	
	英語 Level 2b	F	M.C.Weeks	木(3)	語33	20	
	英語 Level 3b	G	M.C.Weeks	火(2)	A13	20	
	英語 Level 3b	H	MORITA CHUA LIANG	火(3)	語21	20	
	英語 Level 3b	I	POTTER SIMON R.	水(3)	語24	20	
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 1b		有 川 貴太郎	木(4)	語24	20	前期(小坂)から継続
	ドイツ語 Level 2b		J. Peters	火(3)	語31	20	前期から継続
フ ラ ンス 語	フランス語 Level 1b		鶴 卷 泉 子	月(5)	43番	20	前期から継続
	フランス語 Level 2b		DUCROS GARANCE	木(5)	語24	20	前期から継続
ロ シ ア 語	ロシア語 Level 1b		郡 敏 子	火(2)	語33	20	前期から継続
	ロシア語 Level 2b		山崎 タチアナ	金(3)	A25	20	前期から継続
中 国 語	中国語 Level 1b		加 納 光	水(2)	A25	20	前期から継続
	中国語 Level 2b		前 田 光 子	月(3)	22番	20	前期から継続
ス ペ イ ン 語	スペイン語 Level 1b		A. Villalobos	水(4)	語22	20	
	スペイン語 Level 2b		西 村 秀 人	木(4)	語21	20	
朝鮮・韓国語	朝鮮・韓国語 Level 1b		洪 順 愛	金(3)	A26	20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		鄭 芝 淑	火(4)	42番	20	前期から継続
古典ギリシア語	古典ギリシア語 Level 1b		有 川 貴太郎	火(4)	語22	20	前期から継続
ポルトガル語	ポルトガル語 Level 1b		重 松 由 美	木(4)	38番	20	前期から継続
	ポルトガル語 Level 2b		水 戸 博 之	金(1)	語21	20	前期から継続
ラ テ ン 語	ラテン語 Level 1b		水 戸 博 之	金(2)	語21	20	前期から継続
オランダ語	オランダ語 Level 1		小 坂 光 一	水(2)	語33	20	
イタリア語	イタリア語 Level 1b		C. Galisch	水(4)	語24	20	前期から継続

「言語文化・表現セミナー」

	授 業 科 目	担当教員	曜日(時限)	教室	定員	備 考
英 語	言語文化セミナー	村 主 幸 一	月(4)	37番	20	全学部
	言語文化セミナー	上 原 早 苗	火(5)	23番	20	全学部
	言語文化セミナー	涌 井 隆	水(2)	A32	20	全学部
	言語表現セミナー	長 畑 明 利	金(2)	39番	20	全学部
	言語表現セミナー	鈴 木 繁 夫	金(4)	サブラボB	20	全学部

〈外国語特別研修コース〉

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2b	MORITA CHUA LIANG	月(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい The purpose of this course is to help students become more confident and comfortable in the use of English, especially in spoken English, and to enable them to express themselves better in the language. Students will be taught to express their ideas and opinions more effectively and therefore to be better communicators.</p> <p>授業内容 In my experience of teaching English in Japan, I have found that many students acquire many words and phrases over their school years without learning how to put them into use. Similarly, they spent tremendous amounts of time on grammar but without using them effectively when they speak English. A major goal of this course is to help students tap into their passive knowledge of English and turn it into a tool of communication. New words and phrases will of course be introduced to help students improve their power of expression. The emphasis is on practical usage rather than on theoretical principles. Every effort will be made to encourage students put into active use what they learn in class. Class time is spent in a variety of ways, including short video viewing, student presentations, pair work, group work, class debate and other class activities. There are plenty of opportunities for students to speak in English. Common vocabulary and grammatical errors will also be pointed out and explained. Aspects of pronunciation will be elaborated on in order to help students speak more clearly and therefore to become more intelligible to an international audience. The topics covered have included the following in the past but may differ depending on students' interests: cross-cultural miscommunication, common English mistakes among learners of English, difficult language situations (such as apologising, asserting oneself etc.), different varieties of English (British English, American English etc.), cultural sensitivity, current controversial subjects (such as discrimination, sexual harassment etc.) and sometimes seasonal themes such as Christmas and Fathers' Day.</p> <p>成績評価方法 Evaluation is based on attendance, participation and an oral examination. Participation in each lesson is a very important basis for evaluation. The oral examination is conducted individually at the end of the semester.</p> <p>参考書 The Cambridge Encyclopedia of the English Language by David Crystal.</p> <p>注意事項 This course is conducted entirely in English. Students must be warned that the lecturer has limited command of the Japanese language. Students who enroll in this course must be comfortable with the idea of English being used as the medium of instruction.</p>
英 語 Level 2b	HAIG EDWARD	火(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい The purpose of this intermediate level course is to develop students' confidence and spontaneity in spoken English interaction. A further aim is to allow students the chance to participate in improvised drama games, a form of drama which most of them are unlikely to have experienced before.</p> <p>授業内容 This course is based on improvised drama games. Students work in teams to perform short improvised scenes in English. These scenes do not require any memorization of scripts but rely instead on students' imaginations. The aim is to nurture a cooperative and supportive environment in which students develop their ability to work creatively and confidently with whatever communication resources they possess. This is not an academic content-based course and there will be no study of English per se or discussion of serious social 'issues'. Rather, in this course the emphasis is firmly placed on developing oral fluency and therefore relatively little attention will be paid to accuracy and form.</p> <p>During the first few lessons of the course, the basic ideas behind improvised drama will be introduced to the students as they work in small groups to devise their own skits and sketches. As they develop their improvisation abilities, students will be given a number of progressively</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2b	HAIG EDWARD	火(4)	20	<p>challenging improvisation games and tasks to perform. Towards the end of the course students will be introduced to the exciting improvised drama game format known as Theatresports. This is a lively team game in which teams of actors compete with each other to perform various kinds of improvisations.</p> <p>成績評価方法 Students will be evaluated according to their rate of attendance and degree of active participation in the lessons, both of which are of more than usual importance in this course.</p> <p>教科書 None. Ideas for improvisations to be supplied by the students' imaginations.</p> <p>注意事項 Students who enroll for this course should be aware that it requires a high level of physical and mental activity.</p>
英 語 Level 2b	MORITA CHUA LIANG	水(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい The purpose of this course is to help students become more confident and comfortable in the use of English, especially in spoken English, and to enable them to express themselves better in the language. Students will be taught to express their ideas and opinions more effectively and therefore to be better communicators.</p> <p>授業内容 In my experience of teaching English in Japan, I have found that many students acquire many words and phrases over their school years without learning how to put them into use. Similarly, they spent tremendous amounts of time on grammar but without using them effectively when they speak English. A major goal of this course is to help students tap into their passive knowledge of English and turn it into a tool of communication. New words and phrases will of course be introduced to help students improve their power of expression. The emphasis is on practical usage rather than on theoretical principles. Every effort will be made to encourage students put into active use what they learn in class. Class time is spent in a variety of ways, including short video viewing, student presentations, pair work, group work, class debate and other class activities. There are plenty of opportunities for students to speak in English. Common vocabulary and grammatical errors will also be pointed out and explained. Aspects of pronunciation will be elaborated on in order to help students speak more clearly and therefore to become more intelligible to an international audience. The topics covered have included the following in the past but may differ depending on students' interests: cross-cultural miscommunication, common English mistakes among learners of English, difficult language situations (such as apologising, asserting oneself etc.), different varieties of English (British English, American English etc.), cultural sensitivity, current controversial subjects (such as discrimination, sexual harassment etc.) and sometimes seasonal themes such as Christmas and Fathers' Day.</p> <p>成績評価方法 Evaluation is based on attendance, participation and an oral examination. Participation in each lesson is a very important basis for evaluation. The oral examination is conducted individually at the end of the semester.</p> <p>参考書 The Cambridge Encyclopedia of the English Language by David Crystal.</p> <p>注意事項 This course is conducted entirely in English. Students must be warned that the lecturer has limited command of the Japanese language. Students who enroll in this course must be comfortable with the idea of English being used as the medium of instruction.</p>
英 語 Level 2b	M.C.Weeks	水(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい The aim is to attend to all language skills, while addressing the individual needs of students from a diverse range of study and work backgrounds. Above all, the emphasis is on improving conversational range, fluency and speech clarity, as well as the ability to listen to English in a variety of contexts, including travel, everyday conversation, the popular media and lectures. At the same time, a better cross-cultural</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2b	M.C.Weeks	水(4)	20	<p>understanding is sought through discussion of cultural issues today.</p> <p>授業内容 Classes are generally structured around informal and cooperative activities in groups of from two to four people. These groups are chosen randomly and change from week to week in order to ensure variety and improve confidence in using English in any situation.</p> <p>1 Orientation 2-3 Popular media viewing and listening. Discussing tastes, opinions 4 Internet research exercise 5-6 Working together in English, including planning and negotiation structures 7-9 Cultural issues discussions. Documentary viewing 10 Extended fluency development exercise, listening test 11-14 Cultural issues discussions, related media viewing, student requests 15 Course review, final conversation practice</p> <p>All classes after the second week will involve pronunciation practice. Where the class uses DVD or video, the viewing will generally be intensive, with segments no longer than 8 minutes and careful analysis of vocabulary, as well as discussion of the cultural context. All video and exercises are new.</p> <p>成績評価方法 Listening test 15% Vocabulary record 10% Final conversation 30% Written report 15% Participation, including attendance and homework completion 30%</p> <p>教科書 nil. All materials provided by students.</p> <p>参考書 A good dictionary</p> <p>注意事項 English is the language of the classroom. Attendance is checked for each lesson.</p>
英 語 Level 2b	POTTER SIMON R .	木(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい The main objective of "Intermediate English" will be to cultivate better linguistic skills and habits as well as to increase fluency through "informal," relaxed practice.</p> <p>履修条件・関連する科目等 Beginning-level university English or the equivalent.</p> <p>授業内容 Essentially for students who have completed beginning-level university English, or have at least the equivalent in experience and ability, "Intermediate English" will focus on using the English language for purposes of communication. Class sessions will be devoted to conversation, but preparation will require reading and/or writing materials to be discussed. Topics will include current events, social or cultural issues, collegiate studies, and serious items of personal interest.</p> <p>成績評価方法 Grades will be based predominantly on participation and impressions made throughout the course, but an examination to determine practical ability might be given if necessary</p> <p>教科書 Some reading materials will be made available as handouts.</p> <p>参考書 None is required, but an English-to-Japanese and a Japanese-to-English dictionary would be useful.</p> <p>注意事項 Participation is very important.</p>
英 語 Level 2b	M.C.Weeks	木(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい The aim is to attend to all language skills, while addressing the individual needs of students from a diverse range of study and work backgrounds. Above all, the emphasis is on improving conversational range, fluency and speech clarity, as well as the ability to listen to English in a variety of contexts, including travel, everyday conversation, the popular media and lectures. At the same time, a better cross-cultural understanding is sought through discussion of cultural issues today.</p> <p>授業内容 Classes are generally structured around informal and cooperative activities in groups of from two to four people. These groups are chosen randomly and change from week to week in order to ensure variety and improve confidence in using English in any situation.</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2b	M.C.Weeks	木(3)	20	<p>1 Orientation 2-3 Popular media viewing and listening. Discussing tastes, opinions 4 Internet research exercise 5-6 Working together in English, including planning and negotiation structures 7-9 Cultural issues discussions. Documentary viewing 10 Extended fluency development exercise, listening test 11-14 Cultural issues discussions, related media viewing, student requests 15 Course review, final conversation practice</p> <p>All classes after the second week will involve pronunciation practice. Where the class uses DVD or video, the viewing will generally be intensive, with segments no longer than 8 minutes and careful analysis of vocabulary, as well as discussion of the cultural context. All video and exercises are new.</p> <p>成績評価方法 Mid-semester listening test 10% Final listening test 15% Final conversation test 30% Written report 15% Participation, including attendance and homework 30%</p> <p>教科書 nil. All materials supplied by teacher. 参考書 A good dictionary 注意事項 English is the language of the classroom. Attendance is checked for each lesson.</p>
英 語 Level 3b	M.C.Weeks	火(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい The various media now provide amazing access to English language and its related cultures. One of the aims here is to encourage students to expand and explore their English learning outside the classroom well into the future, especially through the various media. At the same time, I hope to provide advanced learners of English an environment within the classroom in which they can freely and enjoyably continue to develop their language skills in accordance with their individual needs.</p> <p>授業内容 This course uses as its basis the English we encounter through the media, from popular TV entertainment, news, movies and documentaries, to magazines and the internet. But sampling the media makes up only a part of each lesson. Each class will also include discussion around the issues raised to improve fluency, vocabulary development. Most classes will include some pronunciation work to ensure smooth English conversations. All video is new from English language media.</p> <p>1 Orientation 2-5 English-speaking popular entertainment as a reflection of the cultures 6 Exploring the Internet 7-10 Documentary viewing for academic listening and discussion skills 11 Internet research exercise, listening test 12-14 Media viewing and discussion as per student requests 15 Course review, final discussion practice</p> <p>Where the class uses DVD or video, the viewing will generally be intensive, with repeated viewing of segments no longer than 12 minutes duration and careful analysis of vocabulary, as well as discussion of the cultural context. Students will usually be seated in randomized groups of from two to four to maximize variety and speaking opportunities. Students seeking extra help with development in specific language areas will be encouraged to consult with the teacher.</p> <p>成績評価方法 Listening test 15% Vocabulary record 10% Final conversation 30% Written report 15% Participation, including attendance and homework completion 30%</p> <p>教科書 nil. All materials provided by teacher. 参考書 A good dictionary 注意事項 English is the language of the classroom. Attendance is checked for each lesson.</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 3b	MORITA CHUA LIANG	火(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい The purpose of this course is to help students become more confident and comfortable in the use of English, especially in spoken English, and to enable them to express themselves better in the language. Students will be taught to express their ideas and opinions more effectively and therefore to be better communicators. The lecturer hopes that students will achieve a standard as close to that of native English speakers as possible.</p> <p>授業内容 In my experience of teaching English in Japan, I have found that many students acquire many words and phrases over their school years without learning how to put them into use. Similarly, they spent tremendous amounts of time on grammar but without using them effectively when they speak English. A major goal of this course is to help students tap into their passive knowledge of English and turn it into a tool of communication. New words and phrases will of course be introduced in order to improve students' power of expression. Every effort will be made to ensure that they are put into active use. The emphasis is on practical usage rather than on theoretical principles. Class time is spent in a variety of ways, including short video viewing, student presentations, pair work, group work, class debate, other class activities etc. Articles from recently published magazines or newspapers will sometimes be assigned as homework for discussion in the following lesson. There are plenty of opportunities for students to speak in English. Critical thinking and analysis and voicing of one's opinions are strongly encouraged. Common vocabulary and grammatical errors will be pointed out and explained. Aspects of pronunciation will be elaborated on in order to help students speak more clearly and therefore to become more intelligible to an international audience. The topics covered have included the following in the past but may differ depending on students' interests: cultural miscommunication, common English mistakes among Japanese students, difficult language situations (such as apologising, asserting oneself etc.), different varieties of English (British English, American English etc.) and current controversial subjects (such as divorce, discrimination, sexual harassment, diseases etc.).</p> <p>成績評価方法 Evaluation is based on attendance, participation and an oral examination. Participation in each lesson is a very important basis for evaluation. The oral examination is conducted individually at the end of the semester.</p> <p>参考書 The Cambridge Encyclopedia of the English Language by David Crystal.</p> <p>注意事項 This course is conducted entirely in English. Students must be warned that the lecturer has limited command of the Japanese language. Students who enroll in this course must be comfortable with the idea of English being used as the medium of instruction.</p>
英 語 Level 3b	POTTER SIMON R.	水(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい The main objective of "Advanced English" will be to cultivate better linguistic skills and habits as well as to increase comfort and fluency through "informal," relaxed practice.</p> <p>履修条件・関連する科目等 Intermediate-level university English or the equivalent.</p> <p>授業内容 Essentially for students who have completed intermediate-level university English, or have at least the equivalent in experience and ability, "Advanced English" will focus on using the English language for purposes of communication. Class sessions will be devoted to conversation, but preparation will require reading and/or writing materials to be discussed. Topics will include current events, social or cultural issues, collegiate studies or research, and serious items of personal interest.</p> <p>成績評価方法 Grades will be based predominantly on participation and impressions made throughout the course, but an examination to determine practical ability might be given if necessary.</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 3b	POTTER SIMON R.	水(3)	20	教科書 Some reading materials will be made available as handouts. 参考書 None is required, but an English-to-Japanese and a Japanese-to-English dictionary would be useful. 注意事項 Participation is very important.
ド イ ツ 語 Level 1b	有川 貴 太 郎	木(4)	20	本授業の目的およびねらい 前期、ドイツ語 Level 1a、の継続。 ドイツ語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいてドイツ語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。 履修条件・関連する科目等 授業は演習（特に口頭練習）を中心に行われるので、毎回出席できることが履修の条件となる。 授業内容 前期、小坂教員の授業方針を受け継いで行う。この授業ではドイツ語会話の基礎となる事項を練習する。授業の流れは以下の通りです。 1. 単語ごとの練習 2. コンマごとに区切った練習 3. センテンスごとの練習 4. カセットテープと同時に（ポーズなしで）発音する練習 5. 書き取りの練習 6. 書き取った内容に関するドイツ語での質問にドイツ語で答えるテクニックの練習 成績評価方法 平常点（日々の練習達成度、課題など）と期末テストによって総合的に評価します。 教科書 小坂光一著『ドイツ語で話してみよう』（同学社） 注意事項 週1回の授業ではとくに欠席をしないことが大切です。
ド イ ツ 語 Level 2b	J. Peters	火(3)	20	本授業の目的およびねらい このコースは「聞く・話す」と「読み・書く」能力を養成する。 履修条件・関連する科目等 二年時修了程度のドイツ語能力を前提とします。 授業内容 Die Anwendung grundlegender und wichtiger grammatischer Strukturen soll gefestigt werden. Darueberhinaus werden kompliziertere grammatische Strukturen behandelt, die einem bedeutende kommunikative Moeglichkeiten an die Hand geben oder einfach nur eine groessere Variabilitaet im Ausdruck ermoeglichen. 成績評価方法 平常点（宿題、積極的な授業参加）、小テスト、学期末の試験 教科書 Albrecht, Ulrike: Passwort Deutsch 3 (Klett) 注意事項 このコースは前期から引き継がれる。
フランス語 Level 1b	鶴 卷 泉 子	月(5)	20	本授業の目的およびねらい フランス語の基礎的な文法知識を獲得しつつ、それと同時に初歩的な運用能力も修得することを目指す。また、フランス語圏の社会と文化について、基礎的な知識を与える。 履修条件・関連する科目等 新たにフランス語を始める学生のためのクラス。前期に開講されるフランス語 Level 1aを引き継ぐ。前期も履修することが望ましい。 授業内容 週一度の授業で一年間かけてフランス語の基礎を修得する。前期の藤村先生の授業を受け、後期には、複合過去・半過去・単純未来・条件法・接続法・ジェロンディフなど、動詞の様々な使い方を主な柱として学んでゆく。このような動詞の時制・法は単に過去や未来の違いに関わるのではなく、文章の細かなニュアンスやフランス語の発想の独特性とも複雑に絡んでいる。それを少しずつ感じ取るための基礎固めをしっかりと進めたい。 他方、教科書のダイアログの素材となっているのはスポーツ、メディア、大学、コンピューター、観光、仕事など、様々な日常の場面であり、実際に使える便利な表現が多く含まれている。授業での練習の他に、CDを使った自宅学習を並行に進めることによって、会話・聴解の基礎もしっかり身につけられるだろう。 成績評価方法 平常点（授業への積極的な参加・小テストなど）40%、定期試験60% 教科書 「アミカルマン・ビス (Amicalement bit)」澤田直他著 駿河台出版社

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
フランス語 Level 2b	DUCROS GARANCE	木(5)	20	<p>本授業の目的およびねらい フランス語基礎文法を既に習得した学生を対象とし、フランス語の文章の読解能力、フランス語による表現能力の向上をはかる。また、フランス語圏の社会・文化について一層深い理解を獲得できるようにする。</p> <p>授業内容 Les diverses activités proposées en cours ont un double but: - aider les étudiants à améliorer leur expression générale tout en la rendant plus spontanée dans la vie quotidienne - apprendre aux étudiants à exprimer leurs idées et leurs sentiments.</p> <p>成績評価方法 - presence et participation en cours - petits tests - examen final</p> <p>教科書 "DELFL nouvelle formule" Hachette FLE 参考書 授業の中で、適宜指示する。</p>
ロシア語 Level 1b	郡 敏子	火(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい 新たにロシア語を習う学生ばかりでなく今一度基礎からやり直したい学生も対象とする、ロシア語の基礎を学ぶための科目である。バランスよくロシア語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行う。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することによりロシア語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「ロシア語に触れる」である。</p> <p>履修条件・関連する科目等 前期からの継続受講者</p> <p>授業内容 1. 「この人は誰ですか?」: 所有代名詞(誰それの)など 2. 「知ってますか?」: 動詞の現在変化など 3. 「ノートは机の中です」: 名詞の前置格(場所の表現)など 4. 「私は東京から来ました」: 国籍・出身地の表現など 5. 「すみません、入っていいですか?」: 許可・禁止の表現、動詞過去形 6. 「ロシア語はおもしろい」: 形容詞の性数変化など 7. 「頭は何のためにあるのでしょうか?」: 身体を表わす語彙など 8. 「ご兄弟はいらっしゃいますか?」: 所有の表現など 9. 「今私は東京にいます」: 手紙の表現など 10. 「紅茶とコーヒーどちらですか?」: 名詞の対格など 11. 「どこにいたの?」「これはおいくらですか?」: 買い物、食事の表現 12. 「お店はどこでしょうか?」: 運動の表現(へ歩いて行く) 13. 「あしたは私は出張です」: 動詞の未来形など 14. 「5時に会いましょう」: 曜日、数字(11以上) 15. 「私はあさってロシアへ行きます」: 運動の表現(乗り物で行く)</p> <p>成績評価方法 普通の授業での取り組みぐあいと定期試験で評価する。 教科書 米重文樹、ビョートル・トマルキン著『話すロシア語入門』白水社 参考書 辞書: 『博友社ロシア語辞典』『岩波ロシア語辞典』『研究社露和辞典』 注意事項 授業での口頭練習に積極的に取り組んで、楽しみながら着実にロシア語を身につけましょう</p>
ロシア語 Level 2b	山 崎 タチアナ	金(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい ロシア語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習うロシア語から使うロシア語」を指向する科目である。さらに高度な文法知識を得ると同時に、生のロシア語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけロシア語を用いる。また、言語文化1あるいは初級ロシア語に引き続き、さらにロシア語世界の理解を深める。目標は「ロシア語を活かす」である。</p> <p>授業内容 ロシア語に限らず各外国語の学習に欠かせないのは、「書く」、「読む」、「話す」、「聞く」という過程ですが、この授業はこれら4つの過程を逆順にし、授業を進行していきます。ウォーミングアップとして、毎回日付や天気をロシア語で確かめ、一つの単語を抜き打ちで取り上げ、それに関する慣用句、日常の言い習わしを練習します。2千のロシア重要単語の中から、毎回幾つかを取り上げてそれに関する短いテキストを読んだり、質疑を活発に行ったりします。ロシア語で言葉のクイズをします。</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
ロシア語 Level 2b	山崎 タチアナ	金(3)	20	<p>授業詳細：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 季節のお話：秋とクイズ 2. 家族の紹介とクイズ 3. ロシア料理とクイズ 4. 季節のお話：冬とクイズ 5. 町を歩く、その1とクイズ 6. 町を歩く、その2とクイズ 7. ロシア地図とクイズ 8. 前半の復習とクイズ 9. 季節のお話：春とクイズ 10. 私の趣味とクイズ 11. 平日の過ごし方とクイズ 12. 週末のレジャーとクイズ 13. 季節のお話：夏とクイズ 14. 大学を卒業したらとクイズ 15. 「私とロシア語」、フリートーキング <p>成績評価方法 評価の方法は、出席および試験期間内のマンツーマンでの口頭試験の二つによって評価します。特に出席は重視します。</p> <p>教科書 プリント配布</p> <p>参考書 参考書は授業中に指示する。露和辞典は、「博友社ロシア語辞典」、「岩波ロシア語辞典」、「研究社露和辞典」の内から一冊を購入すること。</p> <p>注意事項 授業に積極的に参加することが望まれます。</p>
中国語 Level 1b	加納 光	水(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい 第三外国語として、初めて中国語を学ぼうとする学習者を対象とする。この授業においては、中国語の発音及び基礎的文法事項を学び、今後中国語の学習を続けていくうえで必要となる基礎力の養成を目的とする。</p> <p>授業内容 この中国語 Level 1b の授業では、まず411の音節を、声調を伴って正確に発音できるよう指導していく。同時に文法的項目としては、名詞述語文・形容詞述語文・動詞述語文・疑問詞・量詞・否定の副詞・助動詞などを学ぶ。教科書の内容に関連して、中国の風俗・文化などを理解する。</p> <p>成績評価方法 平常点と期末試験による。</p> <p>教科書 加納光・白木通・成戸浩嗣著『ようこそ、中国語の世界へ』（白帝社）</p>
中国語 Level 2b	前田光子	月(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい この授業は日本人講師による講読を中心とした授業であり、より高度な読解力の養成を目的とする。</p> <p>中国語の初級（発音・文法事項等）をすでに習得した学生を対象とし、さらに高度な文法的知識を得ると同時に、現代中国についての理解を深める。</p> <p>履修条件・関連する科目等 中国語または中国に対して興味を持ち、且つ学習意欲が旺盛であること。中国語の初級（発音・文法事項等）を習得していること。</p> <p>授業内容 中国語中級～上級程度の読み物を中心としたテキストを用い、現代中国のさまざまな問題やテーマについて、これまでに習得した単語・文法事項を確認しながら正確に読解する。それによってさらに高度な文法的知識やより多くの語彙を確実に身につけると同時に、現代中国への理解を深める。</p> <p>成績評価方法 平常点：課題及びレポート：期末試験＝2：4：4</p> <p>教科書 授業初回時に指示する。</p> <p>参考書 授業時に指示する。</p> <p>注意事項 履修希望者は第一回目の授業に必ず出席すること。（履修希望者多数の場合、選抜試験を行う。） 毎回の予習・課題をきちんとこなすなどの積極的授業態度を求める。</p>
スペイン語 Level 1b	A. Villalobos	水(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい 前期同様、基礎文法の学習を進めながら、簡単な文を使ってコミュニケーションができるよう練習を重ねていく。聞く・話す・読む・書くといった総合的基礎言語能力の伸長に努めたい。</p> <p>履修条件・関連する科目等 特にないが、前期からの継続であるため、初歩あるいは入門程度のスペイン語の知識があることが望ましい。</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
スペイン語 Level 1b	A. Villalobos	水(4)	20	<p>授業内容 文法学習は、動詞gustar、再帰動詞、現在・過去分詞、受動態、動詞の活用（過去形）、関係詞など、より複雑な文法内容に取り組むことにより、会話力・作文力の向上に結びつけていきたい。</p> <p>教科書の第12課から学習したい。</p> <p>教科書の内容は以下のとおりである。</p> <p>文法事項とともにスペイン語によるコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>2ないし3回の授業で一つの課を学ぶ。</p> <p>第12課 gustar型の動詞、比較級</p> <p>第13課 再帰動詞</p> <p>第14課 点過去（不定過去）1 規則活用動詞</p> <p>第15課 点過去（不定過去）2 規則活用動詞、不定語・否定語</p> <p>第16課 線過去（不完了過去）、間接話法</p> <p>第17課 過去分詞、現在完了形</p> <p>時間に余裕があれば、第20課の未来形を扱う。</p> <p>2課ごとに、若い人たちの歌うスペイン語の歌を扱う。</p> <p>コミュニケーションボードも参照。</p> <p>成績評価方法 出席態度、試験などにより総合的に判断する。</p> <p>教科書 「En español, por favor! スペイン語でお願いします!」 同学社。</p> <p>参考書 西和辞典</p> <p>注意事項 開講時、受講者の学習歴に差違があることが予想されるが、充分配慮の上、授業を進めるので、遠慮なく質問を要望を担当者へ言って欲しい。</p> <p>受講生には、スペイン語世界の言語と文化に積極的な関心を持って授業に参加することを期待する。</p>
スペイン語 Level 2b	西村 秀人	木(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい</p> <p>本授業の目的は、これまで学習してきたスペインの基礎文法を踏まえた上で、それらをさらに発展させ、実践的で総合的なスペイン語の理解を深めることにある。具体的にはラテンアメリカに関するさまざまなタイプの文章を読み解くことで、これまで学習してきた文法事項も確認しつつ、より具体的なスペイン語の運用を目指す。</p> <p>履修条件・関連する科目等 第Ⅰ・Ⅱ期スペイン語1・2・3・4またはスペイン語 Level 1a・bを受講している、もしくは、それと同等の基礎知識を有すること。</p> <p>授業内容 原則として受講者の希望・レベルによって授業内容は調整するが、基本的にはスペイン語で書かれたさまざまなタイプの文章を講読していくことに重点を置いていきたい。</p> <p>この授業で扱うのは、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ラテンアメリカ諸地域を扱った新聞記事 (2) ラテンアメリカ各地域の食文化・音楽・社会問題などに関する短めの文章 (3) ラテンアメリカのジョーク <p>等である。</p> <p>またラテンアメリカの音楽CDを使ったヒアリングも随時行っていきたい。さらに講読した内容を踏まえた上で自分の意見を作文する、あるいはその内容に関する質問に自由に答えるといった実践的な訓練も可能な限り行っていきたいと考えている。</p> <p>文章の講読に際しては適宜文法的解説も含め、これまで学んできた基礎文法のより完全な理解を目指したい。また文法的な問題だけではなく、さまざまなタイプの文章を読解していくことによって、読解のスピードを上げるのに必要な「スペイン語に対する勘」を育てていきたい。</p> <p>成績評価方法 出席状況、授業への積極的な参加、レポート、定期試験の結果を総合的に評価する。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>参考書 新聞、WEBページなど授業時に随時紹介する。</p> <p>注意事項 履修条件と授業内容を十分に理解した上で登録すること。</p>
朝鮮・ 韓国語 Level 1b	洪 順 愛	金(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい</p> <p>新たに朝鮮・韓国語を習う学生ばかりでなく今一度基礎からやり直したい学生も対象とする、朝鮮・韓国語の基礎を学ぶための科目である。</p> <p>バランスよく朝鮮・韓国語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
朝鮮・韓国語 Level 1b	洪 順 愛	金(3)	20	<p>常会話の練習や平易な文章の講読も行なう。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「朝鮮・韓国語に触れる」である。</p> <p>履修条件・関連する科目等 朝鮮・韓国語 Level 1aからの継続であるが、相応の準備があれば後期からでも受講可。</p> <p>授業内容 この授業では次のような能力を養成する。 書記法・発音…ハングルで書かれた文章を確実に読めるようにし、簡単な文章をハングルで正しく書けるようにする。 文 法…基礎的文法を学習する。 日本語話者にとって韓国語の文法事項のうち最も重要なものは用言の活用であるので、この点に重点を置いて学習する。 学習する主な文法事項は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語基の作り方と使い方 ・不規則活用 ・機能別の文種（命令文・禁止文・勧誘文・感嘆文） ・可能否定文 ・過去形 ・進行形 ・可能文 ・願望形 ・緩叙形 ・連体形 ・基本的な接続表現（「～して」「～するが」「～すれば」「～するので」「～しながら」などに相当するもの） ・文体（くだけた丁寧体） ・話し言葉の特徴 <p>口頭表現力…上の文法事項を含む文章を使って簡単な会話ができるようになる。</p> <p>成績評価方法 出欠状況、小テスト及び期末試験の成績により総合的に評価する。</p> <p>教科書 初級朝鮮・韓国語 1 で用いた教材と同じ。</p> <p>参考書 必要なものは授業中に指示する。</p>
朝鮮・韓国語 Level 2b	鄭 芝 淑	火(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい 朝鮮・韓国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習う朝鮮・韓国語から使う朝鮮・韓国語」を指向する科目である。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の朝鮮・韓国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけ朝鮮・韓国語を用いる。</p> <p>また、言語文化 I あるいは初級朝鮮・韓国語に引き続き、さらに朝鮮・韓国語世界の理解を深める。目標は「朝鮮・韓国語を活かす」である。</p> <p>履修条件・関連する科目等 言語文化 I あるいは初級朝鮮・韓国語を履修した者を対象とするが、相応の力があればこれらを履修していなくても構わない。ただし、受講申請時に担当教員に相談すること。</p> <p>授業内容 この授業では初級朝鮮・韓国語あるいは言文 I の学習を通じて得た文法的知識に基づく口頭表現力および聴解力の養成を目指す。授業はできるだけ韓国語を用いて行い、「習うより慣れよ」の原則に従って学習する。発音や文法にこだわらずに、言いたいことを現在の能力を駆使して表現する姿勢と能力を養う。対話の相手が誰であるかに応じた異なる文体の表現をできるようにする。</p> <p>学習事項は、次のような表現形式である。（ただし、順不同。時間の都合により項目の出し入れもある）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己紹介…他人に自分を紹介するための基本的な表現形式を学習する。 2) 紹介…他人を紹介するための様々な表現形式を学ぶ。 3) 出会いと別れ…様々な出会いと別れの場面に用いられる表現を学習する。 4) 約束…人と何かを約束するとき用いる表現を学習する。 5) 道聞き…人に道を尋ねるときに使われる代表的な表現形式を学ぶ。

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
朝鮮・韓国語 Level 2b	鄭 芝淑	火(4)	20	<p>6) 電話…電話での対話の基本形式に習熟する。 7) 宿泊…宿泊の予約や宿泊施設内での対話に用いられる表現を学習する。 8) 病院で…診療の際の医師との対話に必要な表現を学習する。 9) 食堂で…食堂で料理を注文するなど従業員との対話に使われる表現を学習する。 10) ノレバンで…カラオケに行って歌を楽しむ時の対話を学習する。これについては、受講者の希望があれば実際にカラオケで行うかも知れない。</p> <p>成績評価方法 出席状況、平常点、期末試験の成績により総合的に評価する。期末試験は韓国語による面接試験とし、その評価に占める割合は6割程度とする。 教科書 プリント教材。 参考書 必要な物は授業中に指示する。 注意事項 日韓辞典を必ず用意すること。</p>
古典ギリシア語 Level 1b	有川 貫太郎	火(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい 前期に引き続き、古典ギリシア語の初歩を学ぶ授業です。この授業で用いる教材のコンセプトは、古典ギリシア語をなるべく「自然に」学ぶということにあります。そのために、各単元ごとに、ごく日常的なシーンを扱ったナレーションと会話からなる、一貫したストーリーを読みます。といってもそれは、古典作品を巧みにアレンジしたもので、教材前半の、アリストパネスの作品をアレンジした劇なども、きっと興味をそそられるでしょう（間接的にソクラテスも登場します）。</p> <p>履修条件・関連する科目等 以前トライしたことのある人なら、後期からでも不可能ではありません。少しでも興味のあるかたは、自由にご参加ください。ただし、参加した以上は休まないことが大切です。</p> <p>授業内容 引き続き教材にそって進みます。ソクラテスの生きた時代のアテネにタイムスリップして、そこで使われる「生きた言葉」としての古典ギリシア語を学んでいきます。</p> <p>題材としては、当時の市民生活のさまざまな面が扱われています。ペロポネソス戦争下の人々の生活、亡命者、女性の人生、訴訟等々。後半ではエウリピデスの劇、ホメロスの「オデフェュッセイア」からナウシカの一節が原文で取り上げられています。これをゴールに見据えて日々努めていきましょう。</p> <p>成績評価方法 平常点（日々の練習達成度、課題など）と期末テストによって総合的に評価します。</p> <p>教科書 1. Reading Greek: Text. (The Joint Association of Classical Teacher's Greek Course) (Cambridge University Press) 2. Reading Greek: Grammar, Vocabulary and Exercises.C.U.P. 2. は必須。</p> <p>注意事項 教材はテキスト1冊と解説書1冊からなる。文法のほうは必須。参加者数を確認してから注文する。 学ぶ量が多いので、欠席しないことが大切。</p>
ポルトガル語 Level 1b	重松 由美	木(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい ポルトガル語 Level 1b は、ポルトガル語 Level 1a の継続であり、引き続きブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を徹底的に学び、今後ポルトガル語の学習を続けていくうえで必要となる基礎力の養成を目的とする。</p> <p>履修条件・関連する科目等 前期開講のポルトガル語 Level 1a の継続授業である。それを受講していない場合でも、ポルトガル語の初歩的な知識を身に付けた人であれば、だれでも受講可能である。院生及び教職員も受講の対象とする。</p> <p>授業内容 この初級ポルトガル語の授業は、前期に引き続き、週一度の授業で一年間かけてポルトガル語の基礎を修得するクラスである。</p> <p>そのため、ブラジルポルトガル語の最も基礎的な文法事項を徹底的に学習できるように企画された教材を用い、十分な練習問題を織り混ぜながら無理のないペースで順次ステップアップしていく予定である。また、発音クリニックを行いながら「聞く・話す・読む・書く」という総合的な運用力を付けて基礎的な会話力を強めてゆくとともに、受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣の紹介も併せて行ってゆきたい。</p> <p>授業の展開は次のように予定している。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
ポルトガル語 Level 1b	重松由美	木(4)	20	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻の表現 ・ESTAR 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・TER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・QUERER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・FAZER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・IR 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・VIR 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・PODER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・SABER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・CONSEGUIR 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・CONHECER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 <p>成績評価方法 定期試験に加え授業参加を重視し、総合的に判定。</p> <p>教科書 『ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語－基礎をとことん学びたい人のために』兼安シルビア典子著、同学社</p> <p>参考書 辞書が必要である。ポロのどの辞書でもかまわないが、これから購入される場合は、動詞の活用を掲載する次の辞書を推薦する：『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。</p> <p>注意事項 語学の学習は積み重ねの結果であるため、次のステップに進むには既に習ったことの復習が不可欠である。</p>
ポルトガル語 Level 2b	水戸博之	金(1)	20	<p>本授業の目的およびねらい</p> <p>本授業は、既に何らかの方法でポルトガル語の基礎を身に付けた人、あるいは学習歴のある人を対象にしている。今年度は、日本語を母語にする教員が担当するので、基礎文法を下記の教科書を用い、前期の内容を復習しつつ、「接続法」へと進んでいく。基礎文法の学習を一通り完了することがこの授業の目的である。</p> <p>履修条件・関連する科目等</p> <p>「初級ポルトガル語1・2」の少なくともいずれかを履修していることがのぞましい。</p> <p>または、それに準ずるポルトガル語の知識を有すること。後期からの履修も可能であるがある程度文法を学んでいることが必要である。</p> <p>授業内容 授業は前期に引き続き、次の二つの要素から構成することを考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指定教科書による基礎文法の学習。 2) 日本国内で見出されるポルトガル語（掲示物、新聞、放送など）を扱う。 <p>指定の教科書の第40課から最後までを扱う。</p> <p>本授業では、様々な学習歴の受講者が集まることが予想されるが、できるだけ第39課までをあらかじめ一読しておいてほしい。</p> <p>必要に応じて、前の課に戻り既習事項の復習を行う。</p> <p>母語話者の協力が得られる場合には、演習に力を入れたい。</p> <p>以下、各課の文法事項を掲載する。</p> <p>第40課 人称不定詞について</p> <p>第41課 最上級について：形容詞、副詞</p> <p>第42課 過去未来の2種類の用法について・第1の用法</p> <p>第43課 過去未来の2種類の用法について・第2の用法、受動態の作り方</p> <p>第44課 接続法について、接続法未来</p> <p>第45課 代名詞 isto, isso, aquilo について</p> <p>第46課 条件文における接続法過去</p> <p>第47課 命令文の動詞について</p> <p>第48課 2つの条件節：接続法未来と接続法過去</p> <p>第49・50課 接続法現在の用法</p> <p>第51課 接続法と不定詞の関係</p> <p>第52課 接続法の用法：特殊な主節</p> <p>第53課 分詞構文</p> <p>第54課 接続法の複合時制について</p> <p>第55課 接続法における時制の一致</p> <p>成績評価方法 出席。課題への取り組み等。</p> <p>教科書 河野彰『CDブックNHKブラジル・ポルトガル語入門』NHK出版2001年。</p> <p>参考書 辞書が必要である。これから購入される場合は次のものを推薦する：</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
ポルトガル語 Level 2b	水戸博之	金(1)	20	『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。 注意事項 教科書は途中から扱うが、第39課までの部分は既習事項を復習し整理するために、よく編集されているので、充分に活用してほしい。
ラテン語 Level 1b	水戸博之	金(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい 前期に引き続き、「ケンブリッジ・ラテン・コース」の教材を読み進めます。ラテン語を現代語のように学ぶ、という姿勢で続けましょう。教材は一般的なローマ文化を紹介する内容ですが、多様な分野・専攻の受講者に対応しうる内容であると思います。初級レベルの後半ですが、文系理系を問わず、単に一つの語学を学ぶのみならず学問の最も基本的部分に触れる機会になれば幸いです。</p> <p>履修条件・関連する科目等 自由に参加してください。有川貫太郎先生の古典ギリシア語初級（木曜1時限）。やはりギリシア語とラテン語二つそろって教養教育の「完成」です。</p> <p>授業内容 前期からの継続。教科書のユニット1の後半では、食事、剣闘士、公衆浴場、詩人たち、選挙、と市民生活のいろいろな面が題材になっています。そしてヴェスヴィオス山の噴火……紀元79年のローマ社会にタイムスリップしたつもりで、ポンペイ人になってラテン語を話しましょう。順調に行くようなら、ユニット2へと進みます。</p> <p>今年も、水戸（スペイン語・ポルトガル語学）が担当します。 中世や近世のラテン語に関心のある方も歓迎します。</p> <p>前期と同様、時間のはじめにローマやグレゴリオ聖歌などのビデオを数分鑑賞し、皆さんそろったところで、ラテン語名句MEMORANDAの解説、それからおもむろに教科書に入ります。ある程度慣れてきますと、基本的な文法事項を押さえてあれば、かなりの部分物語は、独力で読むことができます。</p> <p>16年度後期は、受講生が主体となって、当番を決めて訳読の発表をしました。とてもよい勉強になったと思います。</p> <p>教科書を1冊終わることを目標にしますが、授業の形式と内容はできるだけ受講者の希望を反映したものになりたいと思います。</p> <p>セネカの言葉です。 Homines dum docent, discunt. 人びとは教えているあいだに学ぶ。</p> <p>成績評価方法 出席とレポートを総合して評価します。</p> <p>教科書 CAMBRIDGE LATIN COURSE UNIT 1 (North American Edition)</p> <p>参考書 適宜紹介します。 昨年度までに紹介したもののいくつかについてはコミュニケーションボードを参照してください。</p> <p>注意事項 基本的には2002年度の有川先生の授業と同内容ですが、担当者が水戸になります。</p>
オランダ語 Level 1	小坂光一	水(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい なるべく多くの言語に触れていただくことを目的としている。</p> <p>履修条件・関連する科目等 もっぱら口頭練習をするので、毎回出席できることが履修の条件となる。</p> <p>授業内容 オランダ語は英語とドイツ語の中間のような言語である。従って、英語かドイツ語のできる人にとっては極めて学びやすい言語である。両方知っていればなお学びやすい。</p> <p>すなわち、語彙に関して言えば英語とかなり似ている。フランス語的な単語も散見される。文法の面ではドイツ語とよく似ている。ほとんど同じと言ってもいいくらいである。ただし、発音は独特である。だから、一番むずかしいのは発音かもしれない。</p> <p>この授業ではオランダ語会話入門とでもいうべき授業をし、オランダ語会話への導入を図りたい。</p> <p>授業の進行は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語ごとの練習 2. センテンスごとの練習（初めはコンマごとに区切って練習する） 3. スピードをある程度守った練習 4. 文法事項を扱った練習 5. プリントを使った、かなり自然な会話テキストの練習

〈言語文化・言語表現セミナー〉

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
オランダ語 Level 1	小坂 光 一	水(2)	20	<p>6. 期末近くになって、なお時間に余裕がある場合は、プリントを使って総合練習をする。 予習は特に必要としない。ほとんどを授業中に解決するという心構えを持って欲しい。</p> <p>成績評価方法 平常の授業での貢献度・平常点が評価される。積極性が高く評価される。</p> <p>教科書 『エクスプレスオランダ語』（白水社）及びプリント教材</p> <p>参考書 オランダ語辞典（講談社）授業のためには必要ありません。</p> <p>注意事項 授業に來たり來なかつたりする人、授業中にただ聞いているだけの人は絶対にお断りします。</p>
イタリア語 Level 1b	C. Galisch	水(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい イタリア語の基礎を習得し、イタリア語の文章を読み書き、イタリア語を話せるようにすること。</p> <p>履修条件・関連する科目等 前期の授業（イタリア語 Level 1a）を履修することが望ましい。</p> <p>授業内容 前期授業よりやや高度な内容のイタリア語文法の基礎事項、特に動詞の変化を中心に解説しつつ、文章を読んだり書いたりすることを学習させる。会話の練習では現代イタリア語でよく使う表現を学び、イタリア語による表現能力の習得に重点を置く。</p> <p>成績評価方法 レポート（イタリア語による文章作成）の採点による。</p> <p>教科書 指定しない。会話の教材のみ必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考書 自習用に、自分に合ったイタリア語入門テキストとイタリア語辞書を選び入手すること。</p>

〈言語文化・言語表現セミナー〉

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 言 語 文 化 セ ミ ナ ー	村 主 幸 一	月(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 シェイクスピアの『アントニーとクレオパトラ』の配役を決め「読合せ」の練習をする。 2 プロの俳優の朗読を手本として、これを繰り返し聴くことにより、劇として成立させるためにはどのような音読が必要かを考える。 3 そのために演劇テキストを読み込む訓練をする。 4 異種の英語に触れる。 <p>履修条件・関連する科目等 演劇やドラマに関心のある人、また芝居がかったことが好きな人、歓迎。</p> <p>授業内容 ＜前口上＞ 最初に注意を。このクラスはあなたの（現代）英語の運用力を伸ばそうとするものではない。今まで接したことのない異種の英語に接すること、英語文化の最高峰とも言えるシェイクスピアの作品に触れること、シェイクスピアの劇を朗読すること（立稽古はしない）、そのような内容である。名古屋大学の英語教育の場合、たいてい現代英語を学習教材としてきたためもあって、英語文化の頂点であるようなシェイクスピアに接する機会はこれまで、ほとんどまったくなかった。蜷川幸雄の演出が英米において話題になり、真田広之、藤原竜也、鈴木杏などの新しいシェイクスピア俳優が生まれてくる状況を見るにつけ、今回、大学においてその機会がなければ学生諸君が一生触れることのないであろうシェイクスピア作品の原文について、その単語の連なりを調べ、台詞を実際に我々も声にだして語ってみたり、またプロの俳優のエロキューションを聞いてみるのも、あながちの外れでもなかろうと考えた次第である。しかし一方で、シェイクスピアを扱うには困難もある。テキスト全部を初めから順次読み進めようとするれば、アントニーがエジプトに帰還する前に、学期は終わってしまう。それで次のようなクラスの構成としたい。</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	村 主 幸 一	月(4)	20	<p><演目予定> 隔週で、「ディスカッション」と、「読合せ練習・読解練習」の二種の作業を交互に行う。前者では、学生諸君はもっぱら翻訳のお世話になり、ディスカッションも日本語による。従って、プロローグでも述べたように、狭い意味では英語の勉強にはならない。しかし、次週の作業のための土台作りの意味はある。コンテキスト抜きでテキストの一部は扱えないからである。後者では、名場面（英語版）をプロの俳優の語り（CD）で聴く。次に配役を決め読合せをする。次にその箇所の訳を試みる。</p> <p><本番までに> 前もって『アントニーとクレオパトラ』を翻訳でよいから読んでおくこと。学期初めに、この作品の内容全体について、質問文（日本語）を一つ、作ってもらうことになる。（コミュニケーションボードに詳細あり）</p> <p>成績評価方法 (1) クラスへの参加と貢献の度合い（そのための提出物を含め）。20点。 (2) 暗誦の小テスト。25点。 (3) 小論文。20点。 (4) 学期末テスト。35点。</p> <p>教科書 Antony and Cleopatra (Oxford World's Classics) ISBN : 0-19-281447-8 (pbk) ; 『アントニーとクレオパトラ』小田島雄志訳（白水Uブックス） ; コースキット（これは後日販売）の三つ。 参考書 高橋康也他編『シェイクスピア辞典』（研究社、2002） 荒井良雄他編『シェイクスピア大事典』（日本図書センター、2002） 小津次郎『シェイクスピア作品鑑賞事典』（南雲堂、1997） 注意事項 指定した教材（指定した版に限る）をすべて購入しない者は受講することを認めない。教材は、上に記した二冊（英語版と日本語訳）とコースキットである。欠席と遅刻のルールを設ける。</p>
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	上 原 早 苗	火(5)	20	<p>本授業の目的およびねらい セミナー・テーマ「文学作品を翻訳する」 翻訳とは単なる英文和訳でなく、翻訳者の表現力や文化的背景に対する知識が要求される、知的かつ芸術的な作業である。この授業ではヴィクトリア朝イギリスを代表するトマス・ハーディの作品を読み、イギリス文化への関心を養いながら翻訳技術を含む英文読解力の向上を目指す。</p> <p>履修条件・関連する科目等 履修条件 英語の上級能力、少なくとも中級以上の能力を必要とする。</p> <p>授業内容 授業の具体的な展開は以下の通り。 1 翻訳とは何か * 文化と論理構造の差異 * 文化的背景の重要性 * 「リスpekタブル」なイギリス社会 2 翻訳の技法Ⅰ * 無生物主語をどう処理するか * 余分な代名詞をどう処理するか 3 翻訳の技法Ⅱ * 「の」をどう処理するか * 文章のトーンをどう決定するか 4 翻訳の技法Ⅲ * 作中人物の個性をどう言語化するか 5 翻訳の技法Ⅳ * 話法の差異をどう処理するか * 自由間接話法をどう訳すか 6 翻訳プロジェクト * ハーディの作品を実際に翻訳する 授業中に適宜、絵画・ビデオ等を使用しながらイギリス社会・文化に関する説明をするが、講義だけでなく、受講者によるレポートの作成・発表によって、より大きな成果をあげていきたい。</p> <p>成績評価方法 授業中の発表内容、ディスカッションへの参加（40%）、翻訳プロジェクト（60%） 教科書 プリント使用 参考書 池田潔『自由と規律』（岩波新書） 英英辞典および類語辞典（授業中に別途指示）</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	上 原 早 苗	火(5)	20	注意事項 実力をつけたい学生のためのクラス。 長時間にわたる予習が必要になるので、その覚悟のない学生は受講できない。
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	涌 井 隆	水(2)	20	本授業の目的およびねらい 世界の古典的なアニメーション作品を鑑賞し、その歴史、作家、技術などについて学びます。英語の授業なので文献はすべて英語、授業での使用言語も受講者のレベルを考慮して出来るだけ英語を沢山使ってもらっています。英語の習得を目的にした授業ではなく英語を使ってアニメーションについて調べたり、論じたりする授業です。受講者の英語に問題がなければ英語で行うことになるでしょうが、そうでなければ日本語が混ざります。 授業内容 鑑賞する作家はマッケイ、ディズニー、フィッシング、ライ、スターレピッチ、ハリーハウゼン、政岡憲三、手塚治虫、山村浩二、トルンカ、川本喜八郎、ノルシュタイン、マクラレン、パン、シュヴァンクマイエル、リーフ、などです。作品はDVDで配布して予め鑑賞してもらってもあれば、授業中に鑑賞するものもあります。分担を決めてネットその他調べてきてもらい出来るだけ英語で発表してもらってから、実際の作品を鑑賞し、その後で質疑応答を行います。このテーマでセミナーを開講するのは今年が初めてなので細部は未定です。特に取り上げて欲しい作家や授業の運営方法があれば希望を出してください。 成績評価方法 総合的な英語能力、出席 参考書 半角が使えないので書名を全部書きませんが、BENDAZZIの大部な概説書は有益なので各自の判断で手に入れてください。6000円ほどします。英訳です。情報はネットでかなり手に入ります。発表の際にはネットを上手に使ってください。教科書を決めて皆で読むということはありません。 注意事項 受講を希望する学生は私のホームページのアニメーションについての文章を予め読んで置いてください。
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	長 畑 明 利	金(2)	20	本授業の目的およびねらい 英文を書く力を養う。英語での口頭発表に慣れる。英語でのディスカッションに慣れる。ジャーナリズムの英語に慣れる。様々なトピックについて、自分なりの意見を培う。 履修条件・関連する科目等 学習への意欲と知的社会的関心。英語リーディングの単位をすでに2単位取得していることが望ましい(学部生の場合)。履修条件とはしないが、だいたいTOEICで650点以上取れる人を対象に授業をする予定。英語を母語としない留学生歓迎。 授業内容 授業内容 課題英作文とプレゼンテーションのワークショップ。授業はすべて英語で行う。受講者は ・毎週指定された英文の記事(『ニューズウィーク』、『ニューヨークタイムズ』など)を読み、それについて200~300単語程度のエッセイを書く。これを各自授業前日(木曜日)の午後4時までに授業の掲示板に投稿する。(発表者を除く。)投稿されたエッセイは教員が英文をチェックしたうえで、PDFファイルにして学生に送る。受講者は自分のエッセイを読み直し、英文の誤りを訂正したうえで、清書したものを後日電子メールで教員に送る。受講者の英文一覧は授業用のHPに掲載される。 ・授業ではまず、課題の英文エッセイ(『ニューズウィーク』、『ニューヨークタイムズ』など)の内容確認(要約の担当を決めておく)、およびそこで採り上げられているトピックについての英語によるディスカッションを行う。 ・その後、あらかじめ指定したおいた2名の発表を聞き、さらにディスカッションを行う。発表は質疑応答を含めて一人15分程度とする。発表者は原稿を人数分コピーし、配布する。発表の際には原稿を読み上げてもよいこととする。 ・課題文は受講者の希望に従い選択するが、希望がない場合は教員が選ぶ。たまには映画についてのディスカッションも採り入れたい。 ・日本人学生で将来教職に就くことを考えている者、留学希望者、大学院進学を考えている者等には特に有益な授業となろう。検定試験の成績を上げるにも有益。 成績評価方法 毎回の作文(4割)、議論・発表および質疑応答(4割)、期末試験(2割)、積極性(ボーナス)の予定。 教科書 『ニューズウィーク』、『ニューヨークタイムズ』など。オンラインで読むか、プリントを用いる。

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	長 畑 明 利	金(2)	20	<p>参考書 ジェイムズ・H・M・ウェブ『日本人に共通する英語のミス121』（ジャパン・タイムズ）。必要があれば、授業中に、またHPでも紹介する予定。</p> <p>注意事項 欠席3回で単位放棄とみなす。私語、ケータイ、睡眠禁止。ここに記載されている授業内容を後に変更することがある。以下に示した授業のHPで最新の情報を確認すること。</p>
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	鈴 木 繁 夫	金(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい 文法はネイティブの原則に、正しい語法は到達目標にという「グローバル英語」を書ければよいという観点から、自分の考えを英語で表現する練習をしていきます。</p> <p>履修条件・関連する科目等 全学教育科目履修の手引きにある通り履修要領にあるとおり。</p> <p>授業内容 タスクとしては、1 仲間の紹介、2 解説付きコマ漫画の説明、3 写真をみて議論文の作成、4 記事を読んで議論文の作成を行います。これはすべてパワーポインター（PP）を使って行うので、発表内容は英語で書くこととなります。発表使用言語はもちろん英語です。</p> <p>タスクをこなす大まかな手順は次の通りです。(1) 文法確認、(2) 語彙、用法のブレインストーミング、(3) 自分の考えがなにかを探る、(4) A4版のルース・リーフに、単文の形式で書く、(5) 文章を練る。(6) PP上で発表用ファイルを作る、(7) PPを使い教室で発表する。</p> <p>とくに (5) についてはインターネット上のコーパス、CD型辞書の利用方法を説明し、文章力アップの仕方を学んでもらいます。また文章構成、用法、語彙のおさらいを合わせて行います。(7) の段階では、発表全体に共通するような誤りを指摘します。学期の最後には、指定したトピックについて議論文（2000語程度）を提出してもらいます。</p> <p>なお授業の初回時と最終授業時との長いテストをして、約四ヶ月のあいだに、英語の力がついたのかを、体感してもらいます。</p> <p>成績評価方法 Class participation 80%, Essay 20%</p> <p>教科書 「英語モード」でライティング：ネイティブ式発想で英語を書く、大井恭子、講談社インターナショナル</p> <p>参考書 Cambridge Advanced Learner's Dictionary</p> <p>注意事項 CDを再生できるパソコン、ネット接続できるパソコンが必要です。</p>